

様式第1号(第3条関係)

年 月 日			
(宛先)八潮市長			
住所 氏名 (法人にあってはその名) 称及び代表者の氏名 電話			
特定工場等設置許可申請書			
八潮市公害防止条例第17条第1項の規定により許可を受けたいので次のとおり申請します。			
特定工場等の 名 称			
特定工場等の 所 在 地			
地 域	用 途 地 域	水 域(放流先河川名)	
業 種			
主要生産品目			
使用する原材料			
資 本 金	円	就 業 時 間	時 分から 時 分まで(時間)
自動車の出入口が接する道路の幅員	m	100メートル以内の 学校・病院等の所在	有 ・ 無
工事着工予定	年 月 日	工 事 完 成 予 定	年 月 日
従 業 員 数	人	公害防止担当部課 (責任者の職氏名)	()
附 近 の 見 取 図(100メートル以内)	△別紙()のとおり		

- 備考 1 「100メートル以内の学校、病院等」とは、特定工場の敷地の境界線から100メートル以内の学校、病院、保育所、診療所、図書館、特別養護老人ホーム及び幼保連携型認定こども園をいう。
- 2 「用途地域」とは、都市計画法第2章の規定による用途地域、「水域」とは、特定工場等から排水されるものの放流先河川名をいう。

敷地・建物の状況	敷地面積(m ²)				建物の配置		△別紙()のとおり		
	建 構 物 造 の ・ 棟 面 別 積	用 途	1	2	3	4	5	6	7
		階 数							
		構 造							
		建築面積 (m ²)							
		床 面 積 (m ²)							
	作業場面積(m ²)								
主たる施設	工場における施設番号								
	種 類								
	公 称 能 力								
	動 力 (KW)								
	台 数								
	構造・配置・使用方法		△別紙()のとおり(施設番号をうつこと。)						
動 力 用 電 力		総 用 水 量		取 水 方 法		総 排 水 量			
KW		m ³ ／日				m ³ ／日			
燃 料 使 用 量		A重油	B重油	C重油	ガ ス	灯 油	その他()		
		1／日	1／日	1／日	m ³ ／日	1／日			
作 業 の 方 法(工程)									
		屋外の作業							
公 害 防 止 措 置 の 概 要 一時的作業を伴う措置 〔を含む。〕									
産 業 廃 棄 物 の 処 理 方 法		△別紙()のとおり							

様式第1号の別紙1(様式第2号の別紙1、様式第15号の別紙1)

敷地内建物の配置及び給排水系統図並びに緑地帯の設置状況

- 備考
- 1 給排水系統については、給水(青)及び排水(赤)の色分けをすること。
 - 2 配置図には建物の用途を記入すること。
 - 3 適当な図面があればそれによることができる。

様式第1号の別紙2(様式第2号の別紙2、様式第15号の別紙2)

ばい煙、粉じん又は有害ガスの発生施設の構造・使用の方法							
工場における施設 番 号							
種類・名称・型式							
使用開始予定年月 日							
規	主 要 寸 法(m) 又は定格出力(kw)						
	伝熱面積・火格子 面積又は羽口面断 面積(m ²)						
模	原 材 料 処 理 能 力 (kg/h)						
	燃料の燃焼量又は変 圧器の定格容量						
使用 状 況	1日の使用時間・ 使用回数等	時～ 時 時間/回 回/日 日/月	時～ 時 時間/回 回/日 日/月	時～ 時 時間/回 回/日 日/月	時～ 時 時間/回 回/日 日/月	時～ 時 時間/回 回/日 日/月	時～ 時 時間/回 回/日 日/月
	季 節 変 動						
原 材 料	種 類						
	使 用 割 合						
	い お う 分 (%)						
	1日の使用量(ボイ ラーにあつては蒸気 発生量)						
燃 料	種 類						
	灰分・いおう分(%)						
	1 日 の 使 用 量						
	混 焼 割 合						
参 考 事 項							

備考 1 「いおう分(%)」欄及び「灰分・いおう分(%)」欄の記入にあつては、重量比又は容量比の別を明らかにすること。

ばい煙、粉じん又は有害ガスの処理の方法							
処理施設の工場における 施設番号							
処理する発生施設の工場 における施設番号							
処理施設の種類・名称・ 型式							
使用開始予定年月日							
処 理 能 力	総排出 物の量 (Nm ³ /h)	最 大					
		常 用					
	総排出物 の温度 (℃)	処 理 前					
		処 理 後					
	ばい煙 すすその 他の粉じ んの濃度 (g / N m ³)	処 理 前					
		処 理 後 (効率%)	()	()	()	()	
	いおう 酸化物 の濃度 (%)	処 理 前					
		処 理 後 (効率%)	()	()	()	()	
	煙 いおう 酸化物 の量 (Nm ³ / h)	最 大	処 理 前				
			処 理 後 (効率%)	()	()	()	()
		常 用	処 理 前				
			処 理 後 (効率%)	()	()	()	()
粉じん 有害ガ スの濃 (/N m ³)	処 理 前						
	処 理 後 (効率%)	()	()	()	()		
使用 状況	1日の使用時間・使用回 数等		時～時 時間/回 回/日 日/月	時～時 時間/回 回/日 日/月	時～時 時間/回 回/日 日/月	時～時 時間/回 回/日 日/月	
	季 節 変 動						
煙突・排気塔の大きさ (高さ×頂口径)							
排 出 速 度 (mS/)							

2 ばい煙の濃度は、乾きガス中のすすその他の粉じん又はいおう酸化物の濃度とする。

3 有害ガス、粉じんの「 の濃度」欄には、有害ガス、粉じんの種類を記入し、(/N m³)欄には、cm³又はgの文字を記入すること。

様式第1号の別紙3(様式第2号の別紙3、様式第15号の別紙3)

粉じん発生施設(コークス炉)の構造並びに使用及び管理の方法				
① 工場における施設番号				
② 名 称・型 式				
③ 使用開始予定年月日				
規 模	④ 原料の処理能力 (t/日)			
	⑤ 炉 室 数			
	⑥ 炭 化 時 間(h)			
装 炭 作 業	⑦ 粉じんの処理装置の 種 類 ・ 型 式			
	⑧ 集じん装置の効率 (%)			
	⑨ 送風機の前動機出力 (KW)			
窯 出 し 作 業	⑩ 粉じんの処理装置の 種 類 ・ 型 式			
	⑪ 集じん装置の効率 (%)			
	⑫ 送風機の前動機出力 (KW)			
消 火 作 業	⑬ 粉じんの処理装置の 種 類 ・ 型 式			
⑭ 参 考 事 項				

備考1 「参考事項」欄には、ガイド車の走向する炉床の強度、ガイド車の軌条の幅員等について記入すること。

2 粉じん発生施設及び粉じんの処理又は防止のための装置(フードを含む。)の構造とその寸法を記入した概要図を添付すること。

様式第1号の別紙4(様式第2号の別紙4、様式第15号の別紙4)

粉じん発生施設 堆積場、コンベア、破砕機、摩砕機 ふるい、バッチャープラント、製綿機 の構造並びに使用及び管理の方法				
① 工場における施設番号				
② 名称・型式・基数				
③ 使用開始予定年月日				
規 模	④ 面積(m ²) 堆積能力(t)			
	⑤ ベルト幅(cm)又はバ ケット内容積(m ³)・ 運搬能力(t/h)			
	⑥ 原動機の定格出力 (KW) 処理能力(t/h)			
使 用 及 び 管 理 の 方 法	集 じん 装 置	⑦ 集じん装置の種 類・型式		
		⑧ 集じん装置の効 率(%)		
		⑨ 送風機の前動機 出力(KW)		
	散 水	⑩ 装置の種類・型 式		
		⑪ 装置の能力 (m ³ /h)		
		⑫ 散水の方法又は 運搬量若しくは 処理量あたりの 散水量(l/t)		
	薬 液 散 布	⑬ 薬液の種類・名 称		
		⑭ 装置種類・型 式・基数		
		⑮ 装置の能力 (m ³ /h)		
		⑯ 散布の方法		
⑰ 防じんカバーの設置 状況				

⑮ その他	方 法				
⑯ 参 考 事 項					

- 備考 1 「規模」欄には、堆積場については面積及び堆積能力、コンベアについてはベルト幅又はバケット内容積及び運搬能力、破碎機、摩砕機、ふるい、バッチャープラント、製綿機については原動機の定格出力及び処理能力を記入すること。
- 2 「散水の方法又は運搬量若しくは処理量あたりの散水量」欄には、堆積場については散水方法(水量、実施頻度等)を、コンベアについては運搬量あたりの散水量を、その他のものについては処理量あたりの散水量を記入する。
- 3 「薬液の散布」欄は、堆積場についてのみ記入すること。
- 4 「その他」欄には、堆積場については、締固めの装置・型式及び方法並びに散水等と同等以上の効果を有する装置、その他のものにあつては散水等と同等以上の効果を有する措置についてを記入すること。
- 5 粉じん発生施設及び粉じんの処理又は防止のための装置(フードを含む。)の構造とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

様式第1号の別紙5(様式第2号の別紙5、様式第15号の別紙5)

汚水の発生施設の構造等									
工場における施設番号									
種類・名称・型式									
使用開始予定年月日									
構造									
主要寸法(m)									
使用状況	1日の使用時間・使用回数等	時～時 時間／回 回／日 日／月	時～時 時間／回 回／日 日／月	時～時 時間／回 回／日 日／月	時～時 時間／回 回／日 日／月	時～時 時間／回 回／日 日／月	時～時 時間／回 回／日 日／月	時～時 時間／回 回／日 日／月	時～時 時間／回 回／日 日／月
	季節変動								
原材料	種類								
	使用量 (1日あたり)								
	使用方法								
		通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
排水量(m³/回)									
水	水素イオン濃度 (pH)								
	生物化学的酸素 要求量 (ppm)								
	化学的酸素要求 量 (ppm)								
	浮遊物質 量 (ppm)								
	油 分 (ppm)								
質	その他の ものの 含有 量								

- 備考 1 「汚水の発生施設」とは、冷凍用冷却装置、ばい煙の洗浄装置、水質汚濁施行令別表第一に掲げる施設等であって水を使用する施設をいう。
- 2 「水質」欄中「その他のものの含有量」には、汚水の発生施設から排出される重金属等すべてについて記入すること。

汚水の処理の方法													
処理施設の工場における施設番号													
処理する発生施設の工場における施設番号													
種類・名称・型式													
使用開始予定年月日													
構造													
主要寸法(m)													
能力(m³/日)													
処理の方法													
消耗資材	資材名												
	用途												
	1日の使用量												
使用状況	1日の使用時間・ 使用回数等	時～時 時間/回 回/日 日/月		時～時 時間/回 回/日 日/月		時～時 時間/回 回/日 日/月		時～時 時間/回 回/日 日/月		時～時 時間/回 回/日 日/月		時～時 時間/回 回/日 日/月	
	季節変動												
		処理前		処理後		処理前		処理後		処理前		処理後	
		通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大	通常	最大
汚水量(m³/日)													
水	水素イオン濃度(pH)												
	生物化学的酸素要求量(ppm)												
	化学的酸素要求量(ppm)												
	浮遊物質(ppm)												
	油分(ppm)												
	全クロム(ppm)												
質	六価クロム(ppm)												
	シアン(ppm)												
	鉛(ppm)												
	カドミウム(ppm)												
	亜鉛(ppm)												
	鉄(ppm)												

様式第1号の別紙6(様式第2号の別紙6、様式第15号の別紙6)

騒音又は振動発生施設の構造等					
工場における施設番号					
種類・名称・型式					
公称能力					
数					
使用状況	1日の使用時間・使用回数等	時～時 時間/回 日/回 日/月	時～時 時間/回 日/回 日/月	時～時 時間/回 日/回 日/月	時～時 時間/回 日/回 日/月
	季節変動				
騒音又は振動の防止の方法					
事業用自動車	種類				
	用途				
	積載量				
	台数				
	1時間あたりの出入回数				
	1日あたりの出入回数				

備考 1 「騒音又は振動発生施設」とは、金属圧延機械、プレス機械等騒音又は振動を発生する施設をいう。

2 「騒音又は振動の防止の方法」欄上は、消音器、つり基礎、遮音塀等騒音又は振動の防止に関して講ずる措置を記入すること。できる限り図面、表等を利用すること。

様式第1号の別紙7(様式第2号の別紙7、様式第15号の別紙7)

臭 気 施 設 の 構 造 等			
施 設 の 構 造	工 場 に お け る 施 設 番 号		
	名 称 ・ 型 式		
	能 力		
	臭 気 の 種 類		
使 用 の 方 法	種 類		
	使 用 割 合		
	1 日 の 使 用 量		
	臭気発生にかかる作 業工程(反応工程)		
	1日の使用時間及び 使 用 日 数 等	時～ 時 時間/回 回/日 日/月	時～ 時 時間/回 回/日 日/月
処 理 の 方 法	処 理 施 設 の 種 類 名 称 及 び 型 式		
	処 理 能 力		
	排 出 口	高さ m 口径 m	高さ m 口径 m
	排 出 ガ ス 量 (Nm ³ /分)	最大 通常	最大 通常
	排 出 温 度(℃)		
参 考 事 項	処理にあたって使用 する燃料又は水の1 日当りの使用量を記 入すること。		

様式第1号の別紙8(様式第2号の別紙8、様式第15号の別紙8)

産業廃棄物の種類・発生量・処理方法				
使用 原材 料	種 類			
	使 用 量(1日当たり)			
	季 節 変 動			
産 業 廃 棄 物 の 種 類				
生 成 量 (t/月)				
処 理 方 法	自 家 処 理 (%)	処理施設の種類・ 名称・型式・能力		
		処理後の残渣の量 (t/月)・処理方法		
		処理費用(円/日)		
		処理方法の概要	△別紙()のとおり	
	委 託 又 は 売 却 (%)	受託者又は買取者 の氏名・名称・住所		
		受託者又は買取者 の 処 理 方 法		
		受 託 費 用 又 は 売 却 代 金(円/t)		
	そ の 他 の 方 法			
	無 害 化 ・ 安 全 化 の 措 置			△別紙()のとおり
処 理 に つ い て の 問 題 点 ・ 将 来 対 策			△別紙()のとおり	
	種 類 年 度			
今 後 三 年 間 の 産 業 廃 棄 物 の 生 成 量	の 見 通 し			

- 備考 1 「生成量」欄の()内には計量器、目測、車数等計量方法を記入すること。
- 2 「無害化・安全化の措置」とは、産業廃棄物に含まれるクローム、ニッケル、銅、亜鉛、水銀、シアン、砒素等の有害物質、大腸菌群等により、直接又は処理に伴い生ずる影響の防止について記入すること。
- 3 「処理についての問題点・将来対策」は、できるだけ具体的に記入すること。
- 4 「産業廃棄物の種類」は、産業廃棄物分類一覧表の分類に従って記入すること。

番号	分 類 名	産 業 廃 棄 物 例
1	セルロース系廃棄物	紙、わら、木、繊維
2	動 ・ 植 物 性 残 渣	発こうのう、のり、革、脂(製造工程からのもの)
3	プ ラ ス チ ッ ク	フタル酸、メラミン、フェノール、ポリエステル、シリコン、ユリア、エポキシ、塩ビ、スチロール、ウレタン、カーボネート、アクリル、エチレン、プロピレン、ナイロン
4	ゴム、タール、ピッチ	合成ゴム、生ゴム、仕上バリ層、ゴム薬品
5	有 機 溶 媒	シンナー、トリクレン、アセトン、アルコール
6	不 燃 性 油	コンデンサー油
7	可 燃 性 油	機械油、重油、潤滑油、クリーム乳液
8	酸 類	ふっ酸、りん酸、ほう酸、クロム酸
9	ア ル カ リ	金属、セッケン、石灰、カセイソーダ
10	金 属 系 廃 棄 物	鉄粉、切削、亜鉛ドロス
11	が れ き	ガラス、酸化炉るつぼのくず、陶器くず、れんがくず、集じんダスト、研磨かす、鋳物砂、建設土砂
12	フ ラ ッ グ	炉滓、ノロ、溶接かす
13	炭 素 系 廃 棄 物	すす、電極、活性炭
14	石 炭 が ら	コークス灰
15	ス ラ ッ ジ	塗料かす、重油残渣、インキかす、廃水処理による動植物性廃棄物、触媒かす、鉄さい、中和塩(カルシウム、鉄、ナトリウム塩)、塩析かす、けいそう土、ろ過助剤、炭酸ソーダ
16	雑 ご み	工場、事務所のごみ
17	その他()	